AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究集録 (2013.12) 平成24年度:129～131.

チーム力の向上を目指した外科的フットケアチームの取り組み

坂上　綾野

チーム力の向上を目指した外科的フットケアチームの取り組み

旭川医科大学病院　９階東ナースステーション
坂上　綾野

【背景・目的】患者の QOL の向上と医療の効率化を目的に、医師と看護師からなる外科的フットケアチームを立ち上げ 5 年が経過した。昨年は看護師が行う外科的フットケアを受けている患者を対象にチームの活動の評価を行い、医師―看護師間の情報共有と連携の不足、看護師の創傷アセスメント能力の未熟さが問題点として明確になった。今年は明らかになった問題点について取り組み、フットケアチームのチーム力向上を図ることで、活動内容を充実することを目標とした。患者の創傷治癒過程と合わせて、一連の取り組みを報告する。

【方法】①定期的に医師と看護師にてフットケアカンファレンスを開催する。フットケア対象患者の創部の画像を見ながら、創部の状態や今後の治療方針について意見交換を実施する。結果を記録に残し全スタッフで情報を共有する。②医師による創傷アセスメントツールや対処方法に対する講義を開催する。実践に反映させるためのアンケートの実施と、フットケアチームによる創傷ケアの実技講習を開催する。

【結果】フットケアカンファレンスを実施することで，患者に創傷治癒段階に応じた知識の提供や管理方法の説明を医師と看護師が連携、協同して行えるようなった。また看護師は、患者に手術後早期から退院を見据えた段階的な指導が可能となり、患者が退院後に必要な自己健康管理能力の向上や再発予防行動の促進に繋げることが出来た。

背景

昨年度、看護師が行う外科的フットケアについて患者アンケートを実施

問題点

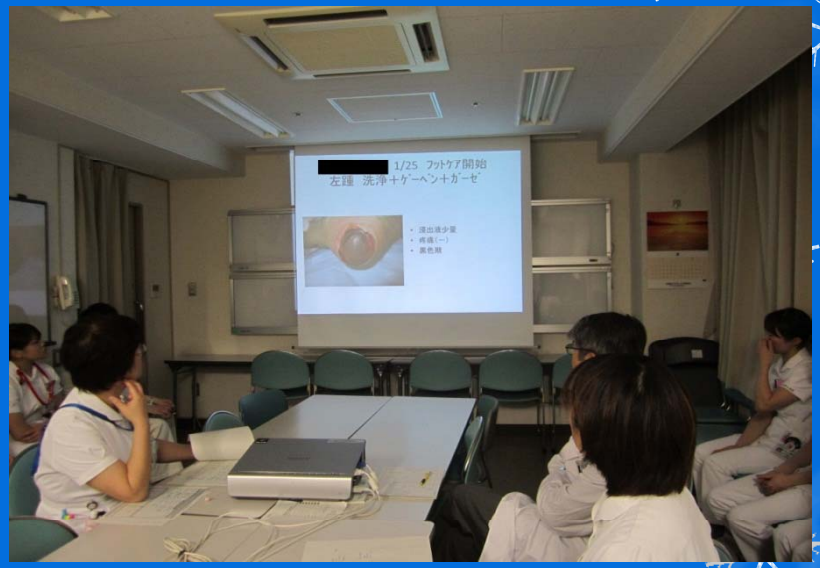
・医師と看護師間の情報共有と連携不足

・看護師の創傷アセスメント能力の未熟さ

外科的フットケアのチーム力向上を目指し、活動内容の充実を図った

方法

1）医師と看護師が合同でフットケアカンファレンスを開催する。
創傷アセスメントツールに関しての講義を受ける。



2）外科的フットケアチームによる創傷ケアの実技講習を開催する。

外科的フットケアチーム内の役割

血行再建術後

↓

外科的フットケア開始

医師

術直後や感染徴候の強い時期の処置（ﾃﾞﾌﾞﾘｰﾄﾞﾏﾝ等）を実施する。

情報の共有・連携

・定期的に医師と看護師との合同ｶﾝﾌｧﾚﾝｽを開催する。
・毎週月曜日、医師と看護師で回診し、創部の評価を行う。
・今年1月より皮膚・排泄ｹｱ認定看護師も加わる。

看護師

・術後安定期の創部に対して毎日処置・ｱｾｽﾒﾝﾄを行う。変化時は医師に報告する。
・創部の写真と評価内容はPCに保管し、ｽﾀｯﾌ間で共有する。
・今年1月より毎週木曜日、皮膚・排泄ｹｱ認定看護師と処置を実施する。

退院に向けての手技の習得

医師

回診の結果や看護師からの報告を受け、創部の状況に合わせて指示を変更する。

情報の共有・連携

外科的ﾌｯﾄｹｱの実施方法について医師と共に最終評価をする。

看護師

・患者と共にﾌｯﾄｹｱを行い、指導した内容について記録に残し、ｽﾀｯﾌ間で共有する。
・自己管理が困難な場合、家族に指導する。
・退院時指導（ｸﾞﾗﾌﾄ触知、下肢の観察、爪切り）を実施する。

↓

退院

今年度のフットケア介入件数：76件

事例紹介

Ａ氏　80歳代女性

両下肢ＡＳＯ　右足背・右踵部に潰瘍あり。

前医より右膝下からの切断を宣告され、

救肢目的で当院転院となる。

血行再建術施行する。

血行再建術後１ヶ月
(フットケア開始)

・看護師による
フットケア開始。
・洗浄及び軟膏
塗布等を実施す
る。

創部デブリードマン後
(36日目)

・看護師が毎日処置
を実施し、創部の変
化の有無を観察する。
・医師と創部の評価
を毎週実施する。
・創部の治療状況を
患者に説明する。

ＶＡＣ療法中
(105日目)

・医師による定
期的なＶＡＣ交
換に立ち会う。

分層植皮術後（114日目）

・植皮1週間後フットケア再開。

・洗浄及び軟膏塗布等を実施する。

植皮術後上皮化傾向（134日目）

・患者の能力に応じ、フットケア自己管理方法の指導をする。

潰瘍治癒（175日目）

・自宅で出来るフットケア方法を患者と検討する。

・指導内容を記録し、介入を継続することで自己管理可能となった。

結語①

１）患者に創傷治癒段階に応じた知識の提供や管理方法の説明を医師、看護師が連携・協働して行えるようになった。

２）患者の創状態から、どの創傷治癒過程にあるのか確認することができ、看護師の創傷アセスメント能力が向上した。

結語②

３）看護師は患者に手術後早期から退院を見据えた指導が可能となり、患者が退院後に必要な自己管理能力の向上につながった。

今後の課題

今後は医師との合同カンファレンスを充実させると共に、皮膚・排泄ケア認定看護師と連携を深め、外科的フットケアの質を高める。